


令和5年度		
氏名	あしだ みちのり 芦田 美智則	
生年	昭和27年生	
住所	兵庫県丹波市	
品目	<p>丹波黒ごま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丹波市は、丹波栗、丹波黒大豆、丹波大納言小豆など多くの特産農産物を有する ・ 平成16年に6町が合併し丹波市が誕生した際に、初代市長から「丹波市の新たな顔となる特産物が欲しい」と望まれ、黒大豆の黒にあやかり黒ごまに着目 ・ 平成17年に茨城県の国産在来種の黒ごまによる試験栽培を開始 ・ 平成18年「丹波黒ごま振興会」を組織し、平成26年には、更なる栽培拡大を目指すため、「丹波黒ごま生産組合」へと再編、生産指導等を強化 ・ 県農業改良普及センターの指導、市当局から省力播種機や収穫用バインダー、種子購入補助などの支援を受け、産地化に取り組む 	
技術	<p>実証結果に基づく省力化栽培体系を組み立て、黒ごまの有機栽培に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県農業改良普及センターと連携し、比較実証圃を設置し、施肥量、マルチ穴の間隔、播種量、間引き後の本数の比較実証を行い、栽培技術改良に取り組む ・ 省力化を目指した「畝立て、マルチ敷設、播種」の同時作業機、コート種子を導入（コート種子については、高価であることから行政へ働きかけ、種子購入補助の対象に追加） 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元県職員としての経験を活かして、「丹波黒ごま生産組合」の設立に尽力。 ・ 「丹波黒ごま」の知名度向上のために、有名パティシエへ使用を働きかけ ・ 「丹波黒ごま」の消費拡大のために、市内の菓子製造者や道の駅の商品などへ黒ごまの使用を働きかけ ・ 現在は、丹波黒ごま生産組合の顧問として、丹波黒ごまについての情報発信、栽培講習会等での助言・指導、新規栽培者の掘り起こし等を実施 ・ 丹波市立「農の学校」の学生を対象に課外授業も担当、市内の農業高校（県立氷上高等学校）にも黒ごま栽培を勧め、両校での黒ごま栽培を指導 ・ 生活協同組合コープ自然派兵庫の黒ごま農作業体験の受け入れを実施 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな国産ごまの生産組織の設立、省力栽培管理技術等 ・ 高齢者等が担える国産ごまの栽培、新たな作物の生産振興 ・ 既存ごま産地の課題、産地育成、地域活性化への助言指導 ・ 新規にごま栽培への取組を検討している産地への助言 	
受賞歴等	・	
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年3月～平成27年3月 丹波黒ごま生産組合 副組合長 ・ 平成27年3月～平成31年3月 同 組合長 ・ 平成31年3月～現在 同 顧問 	
H	P	

